ことわざ一覧（68こ・意味つき）

よく使われることわざと、その意味。

石の上にも三年（いしのうえにもさんねん）
つらくても、がまんして続ければ、いつかはうまくいく。

塵も積もれば山となる（ちりもつもればやまとなる）
ごく小さなものでも、積み重なれば大きなものになる。

継続は力なり（けいぞくはちからなり）
続けることが、そのまま力になる。

千里の道も一歩から（せんりのみちもいっぽから）
大きな仕事も、手近な小さなことから始まる。

雨垂れ石を穿つ（あまだれいしをうがつ）
小さな力でも、根気よく続ければ大きなことができる。

七転び八起き（ななころびやおき）
何度失敗しても、くじけずに立ち上がる。

好きこそものの上手なれ（すきこそもののじょうずなれ）
好きなことは熱心にするので、自然と上手になる。

習うより慣れよ（ならうよりなれよ）
人から教わるより、自分で何度もやって慣れるほうが身につく。

聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥（きくはいっときのはじ、きかぬはいっしょうのはじ）
知らないことを聞くのは少しの間はずかしいだけだが、聞かずにいると一生知らないままになる。

鉄は熱いうちに打て（てつはあついうちにうて）
物事は、やる気や好機のあるうちに行うのがよい。

ローマは一日にして成らず（ろーまはいちにちにしてならず）
大きな仕事は、長い間の努力を積み重ねてできあがる。

急がば回れ（いそがばまわれ）
急ぐときほど、安全で確かな方法をとったほうが結局は早い。

石橋をたたいて渡る（いしばしをたたいてわたる）
用心の上にも用心する。

転ばぬ先の杖（ころばぬさきのつえ）
失敗しないように、前もって用意しておく。

備えあれば憂いなし（そなえあればうれいなし）
ふだんから準備しておけば、何が起きても心配がない。

ことわざ一覧（68こ・意味つき）（2）

よく使われることわざと、その意味。

二度あることは三度ある（にどあることはさんどある）
二度起きたことは、もう一度起きやすい。

口は災いのもと（くちはわざわいのもと）
うっかり言ったことが、もめごとのもとになる。

急いては事を仕損じる（せいてはことをしそんじる）
あわてて物事をすると、失敗しやすい。

一寸先は闇（いっすんさきはやみ）
これから先のことは、まったくわからない。

弘法も筆の誤り（こうぼうもふでのあやまり）
どんな名人でも、ときには失敗する。

失敗は成功のもと（しっぱいはせいこうのもと）
失敗しても原因を考えて直せば、成功につながる。

後悔先に立たず（こうかいさきにたたず）
終わったあとで悔やんでも、取り返しがつかない。

覆水盆に返らず（ふくすいぼんにかえらず）
一度してしまったことは、もとにもどせない。

身から出たさび（みからでたさび）
自分のした悪い行いのせいで、自分が苦しむ。

弱り目にたたり目（よわりめにたたりめ）
困っているときに、さらに困ったことが重なる。

三人寄れば文殊の知恵（さんにんよればもんじゅのちえ）
ふつうの人でも、三人集まって相談すれば、よい考えが出る。

情けは人のためならず（なさけはひとのためならず）
人に親切にすれば、めぐりめぐって自分にもよいことが返ってくる。

類は友を呼ぶ（るいはともをよぶ）
似た者どうしは、自然に集まる。

朱に交われば赤くなる（しゅにまじわればあかくなる）
人は、つき合う相手によって良くも悪くもなる。

親しき仲にも礼儀あり（したしきなかにもれいぎあり）
仲のよい間がらでも、礼儀は守るべきだ。

ことわざ一覧（68こ・意味つき）（3）

よく使われることわざと、その意味。

人のふり見て我がふり直せ（ひとのふりみてわがふりなおせ）
人の行いを見て、自分の行いを反省し直す。

郷に入っては郷に従え（ごうにいってはごうにしたがえ）
新しい土地では、そこのやり方に合わせるのがよい。

出る杭は打たれる（でるくいはうたれる）
目立つ人は、ほかの人からにくまれやすい。

良薬は口に苦し（りょうやくはくちににがし）
ためになる忠告は、聞くのがつらいものだ。

負けるが勝ち（まけるがかち）
相手にゆずったほうが、結局は得になることがある。

上には上がある（うえにはうえがある）
すぐれていると思っても、さらにすぐれた人がいる。

一を聞いて十を知る（いちをきいてじゅうをしる）
一部分を聞いただけで全体がわかるほど、かしこい。

縁の下の力持ち（えんのしたのちからもち）
人に知られないところで、他人のために苦労すること。

旅は道連れ世は情け（たびはみちづれよはなさけ）
旅では連れがいると心強く、世の中では思いやりが大切だ。

時は金なり（ときはかねなり）
時間はお金と同じように大切だ。

早起きは三文の徳（はやおきはさんもんのとく）
朝早く起きると、何かよいことがある。

安物買いの銭失い（やすものがいのぜにうしない）
安い物は質が悪く、結局は損をする。

宝の持ちぐされ（たからのもちぐされ）
役に立つ物や才能を持っていても、使わなければむだになる。

花より団子（はなよりだんご）
見た目の美しさより、実際に役立つもののほうがよい。

百聞は一見にしかず（ひゃくぶんはいっけんにしかず）
何度も聞くより、一度自分の目で見るほうがよくわかる。

ことわざ一覧（68こ・意味つき）（4）

よく使われることわざと、その意味。

案ずるより産むがやすし（あんずるよりうむがやすし）
心配するより、実際にやってみると案外かんたんだ。

灯台下暗し（とうだいもとくらし）
身近なことは、かえって気づきにくい。

言わぬが花（いわぬがはな）
はっきり言わないほうが、味わいがあってよい。

待てば海路の日和あり（まてばかいろのひよりあり）
あせらずに待てば、やがてよいことがやってくる。

果報は寝て待て（かほうはねてまて）
幸運は、あせらずに待つのがよい。

笑う門には福来る（わらうかどにはふくきたる）
いつも笑顔でいる家には、自然と幸せがやってくる。

残り物には福がある（のこりものにはふくがある）
人が取り残したものに、思いがけずよいものがある。

雨降って地固まる（あめふってじかたまる）
もめごとのあとは、かえって物事がうまくおさまる。

船頭多くして船山に上る（せんどうおおくしてふねやまにのぼる）
指図する人が多すぎると、物事がおかしな方向に進む。

光陰矢のごとし（こういんやのごとし）
月日がたつのは、とても早い。

棚からぼたもち（たなからぼたもち）
思いがけない幸運がまいこむ。

さわらぬ神にたたりなし（さわらぬかみにたたりなし）
よけいなことにかかわらなければ、災難にあうこともない。

楽あれば苦あり（らくあればくあり）
楽しいことのあとには苦しいことがあり、その逆もある。

帯に短したすきに長し（おびにみじかしたすきにながし）
中途半端で、どちらにも役に立たない。

ぬかに釘（ぬかにくぎ）
手ごたえがなく、ききめがない。

ことわざ一覧（68こ・意味つき）（5）

よく使われることわざと、その意味。

のれんに腕押し（のれんにうでおし）
力を入れても手ごたえがない。

焼け石に水（やけいしにみず）
助けが少なすぎて、役に立たない。

知らぬが仏（しらぬがほとけ）
知れば腹が立つことも、知らなければ平気でいられる。

住めば都（すめばみやこ）
どんな所でも、住み慣れればよい所に思える。

終わりよければすべてよし（おわりよければすべてよし）
最後の結果がよければ、途中のことは問題にならない。

論より証拠（ろんよりしょうこ）
議論するより、証拠を見せるほうが早い。

言うは易く行うは難し（いうはやすくおこなうはかたし）
口で言うのはかんたんだが、実行するのはむずかしい。

二階から目薬（にかいからめぐすり）
思うようにいかず、もどかしい。ききめがない。